



国内で七島イを生産しているのは、国東市だけで、全国に誇れるオンリーワンの特産物です。平成21年に5軒まで減少した七島イ農家も、現在では少しずつ増え始めています。

4月28日、今シーズン最初の七島イの植え付け作業が、今年も安岐町塩屋の松原正さんの田んぼで始まり、今年、松原さんに弟子入りした人がいます。

### 新規就農者増加へ 次的一步

5月24日、諸富さんが借りている安岐町富清の田んぼで、七島イの植え付け体験が行われました。この日は、別府大学の学生や地元諸富さんが借りた田んぼは、約

400平方メートルあり、奥の40平方メートルはくにさき七島蘭振興会が七島イの株を確保するための増殖圃として使います。植え付け作業に必要な七島イの株は、七島イ栽培を継続している農家しか持っていません。今後、新規に七島イ栽培を始める方の株確保のために、今回増殖圃を作ることになりました。



## オンリーワンの強み



諸富康弘さんは、昨年の9月まで大分市で働いていました。しかし、子どもの頃に嗅いだ七島イの畳表の匂いと色が忘れられず、自分で七島イの畳表を作りたいと一念発起して七島イ栽培に挑戦することになりました。



くにさき七島蘭振興会の細田事務局長は、「七島イ農家は、今まで栽培から製



## 育まれてきたもの

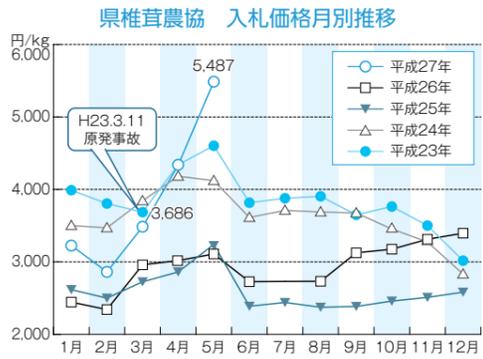


国東半島宇佐地域は、日本有数の原木乾しいたけの栽培地であり、クヌギ林とため池がつなぐ農林水産循環のなかで、原木乾しいたけ栽培がしっかりと根付いています。しかし、栽培する農家のみならず、巻き取った状況は、非常に厳しいものがあります。

平成23年3月11日の東日本大震災の原発事故以降、風評被害

により乾しいたけの価格が低迷し続けています。今年になって、価格は上昇していますが、それは、天候

不良により生産量が減少し、市場に出回る乾しいたけが減ったことによるもので、生産者の収入が増えているわけではないのです。しかし、国東市の乾しいたけ生産者は、地道に頑張っています。



山口勝治さん (国見町) 阿部悦男さん (安岐町) こうしん部 優等賞 村上幸吉さん (安岐町)

そして、5月18、19の両日に大分市で開かれた第58回大分県乾しいたけ品評会の「箱物こうこの部」で林野庁長官賞を阿部悦男さんが受賞しました。阿部さんは、「悪天候が続く中、手間をおしませず、ホ夕場を見て回り、的確な採取時期を見極めたことで受賞できました。努力が報われて非常に嬉しい」と話していました。

### 乾しいたけの次の一歩

国東半島宇佐地域の農家のみならずの努力があって、高い品質を保っている大分県産乾しいたけが、ミラノ万博に出品されます。ミラノ万博は、5月1日から開幕していますが、10月16日(金)21日(水)までの6日間、日本で世界農業遺産に登録されている5地域が共同出展します。そして、大分県産乾しいたけをPRするために、展示ブースで流すプロモーションビデオは、国見町で撮影されました。

